

# 考えや思いを伝え合い、 共に高め合う子どもの育成

## 大分県中津市立鶴居小学校

全校児童数	465名(男子233名 女子232名)		
全クラス数	19	教職員数	42名
体育専科教員訪問学校数			4校
訪問校	中津市立 樋田小・如水小・北部小・豊田小		
体育専科教員名		伊藤 滋	

### Plan：取組時の課題と計画

#### 1 取組時の課題

- ◆児童体力の二極化
- ◆有効な教材の数が足りない。マット・ハードル
- ◆感染症対策での授業が難しい
- ◆若年教師が多く、経験が少ない
- ◆体育館が狭く、合同体育で球技ができにくい

#### 2 取組の計画

- ① 年間カリキュラムの作成・見直し（感染症対応）  
気候・学校特性を考えた種目ごとの系統的なカリキュラム作成を行う 2月～4月
- ② 教職員への研修  
年度初め・夏期休業中に校内研修を行い、教職員への意思統一を図る。感染症対策の校内教職員向け研修を行う
- ③ 特別期間を設ける  
陸上週間（ハードル走）・マット週間・跳び箱週間  
ボールゲーム週間・なわとび週間・マラソン週間を設け集中して運動を行う

### Do：実践内容

#### 1 カリキュラム作成

- ① 系統性を持った年間カリキュラムの作成を行う  
（校内体育部5名と体育専科教員にて）

#### 2 教職員への研修

- ① 4月・8月に教職員全体で体育についての研修を行う

##### 【研修内容】

- ・体育学習の特性と教師の関わり方
- ・体力測定の様子と正確な測定方法について
- ・表現の指導方法と留意点について

#### 3 特別期間の取り組み

- ① マット・跳び箱週間 11月  
ボールゲーム週間 11月～12月  
なわとび週間・持久走週間 1月  
を設定し、全校で同じ種別に取り組む

#### 4 その他の取り組み

- ① マットカードや跳び箱カードやハイジャンプカードなどの個人カルテを作成し児童の記録を次の年度に残す
- ② マットやハードルの数を増やし、少人数でマットやハードルの使用を可能にする
- ③ 振り返りの時間を活用しチームワークやルールについて確認するとともに、新しい発見や友達を認めるなどチームプレーについて学ぶ

### ●工夫したこと（&苦労した点）

- ① 器械運動や陸上運動のカルテを次年度に残すことにより、個人の成長が明確になる
- ② 準備運動をパターン化し、音楽に乗せてストレッチ体操やボールハンドリングを行うことにより、楽しく体を動かすことができた
- ③ 各種目別に系統性を確立することにより、次年度への導入がスムーズになり、児童の意欲も向上する
- ④ 初任者や若年教師への実践を通じた指導（年10回以上授業研究を行う）

### Check：取組の成果

- ① アンケートで体育がすきと答える児童の割合が昨年よりも増えた。また、保護者アンケートにおいても、体育の授業が楽しいという回答の割合が増えた
- ② 体育の授業規律が整ってきたことで、校内が落ち着いてきた（廊下の歩き方や全校集会の時の様子）

### Action：今後の課題

- ① 昨年度に引き続いて、感染症の影響があり、カリキュラムの変更が必要な場合がある
- ② 他校への訪問計画の調整が難しい  
他校の教育課程に変更があった場合に対応しづらい

### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

体力向上の取り組みが、教師と子どもに共通認識されたことにより、児童朝会や運動会や避難訓練などの集合の態度が格段に良くなってきた。大人数で集まったときの心構えを理解し、静かに話を聞ける態度が備わってきた。

ハイジャンプ（走り高跳び）の授業で、セフティーマット・ゴム紐を使つてのはさみ跳び・正面跳びの指導



3 年生 跳び箱運動で開脚跳びの指導（手を跳び箱の前方について腰を高く上げる）

